

渋谷区教育委員会 殿

渋谷区立原宿外苑中学校長

駒崎 彰一

(公印省略)

令和6年度教育課程について(届)

このことについて、渋谷区立学校の管理運営に関する規則に基づき、下記の通り編成をいたしましたのでお届けします。なお、各法令及び学習指導要領等に基づき、生徒、学校、地域の実態や社会の情勢等に応じ、地域等のリソース(教育資源)を最大限活用しながら、適正で安全かつ柔軟に実施にあたり、しなやかにカリキュラムをマネジメントしてまいります。

記

I 教育目標

(1) 学校の教育目標

「Society 5.0」の到来に伴い、人類がこれまで経験したことのない大きな変革期を迎えている中で「AI、ビッグデータ、IoT、ロボティクス等」の高度化した先端技術を使いこなし、多様な他者の価値観や特性の差異、世界的な環境の変化等と協調して、これまで経験したことのない様々な課題を主体的に解決していく人材育成が求められています。このようなグローバル人材(次世代人材)の育成を目指し、激動の時代をたくましく歩んでいくための「生きる力」を育むため、次の目標を設定します。

○ Communication

多様な他者との主体的な「コミュニケーション」により
自分のよさや可能性を見だし「探究」し続けるとともに
あらゆる他者を価値のある存在として尊重することができる

○ Collaboration

多様な他者との協調・協働「コラボレーション」により
「様々な社会的変化を乗り越える」ことができる

○ Innovation

多様な他者の考えを統合することにより
「新しいコト・モノ」を創出できること(イノベーション)を知り
「豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手」となることができる

ア コア・コンセプト

Connect to the Future –Challenge & Evolution–

未来へ継承

挑戦と進化

めざすのは「ちがいをちからに変える学校」あなたと誰かの「ちがい」はすべてこの学校のちからになっていきます あなたが存在しなければつukれない未来がある
原宿外苑中学校のすべてのちがいをちからに変えて
未来社会を見据えた「未来の学び」を創造し「未来の学校」を構築する
これからの未来社会をたくましく生き抜くグローバル人材をめざして
限りない「挑戦」とたゆまぬ「進化」によって すべてを「未来へ継承」する

イ マルチ・コンセプト

Don't think. Just do ! HarajukuGaien

やっちゃえ 原宿外苑

「世界水準の学び(グローバルな学び)」の構築に向けた「学びのイノベーション」が求められています。これまでやってきた教育活動を踏まえ、「未来の学び」を試行錯誤して構築していく必要があるといわれている中で「新たな課題」が数多く出現することが予想されます。これらの課題を乗り越えるためには、「実行力」が重要です。子供たちのために「良いこと」はとことんやる。そして、やり切る「突破力」も必要です。この「実行力・突破力」を引き出すために Don't think. Just do ! HarajukuGaien “やっちゃえ 原宿外苑” をキャッチフレーズに新しい教育活動を展開していきます。

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

教育目標を達成するために、次の5つの視点(「新たな学びの実現・探究学習について」「安心・安全に挑戦できる教育環境について」「学校 DX への取組について」「地域リソースの活用について」「特色ある教育活動について」)からアプローチしていきます。

ア 新たな学びの実現・探究学習に関する方針

(ア) 自分の未来を最大化する -Communication-

コミュニケーションで「学び」を広げ、主体的に探究することのできる力(探究し続ける力)の育成をベースに、自分のスキル(資質・能力)で、自分の未来を最大化することができるようにすることが今後の「学び」に必要であると捉えています。このために、キャリア教育の視点から授業を再構築し、各教科のねらいを達成することはもちろん、実社会につながるスキル(資質・能力)の育成の視点から授業の本質を問い直していきます。「学びと社会をつなぐ」ことを基本として、「良質な課題」を設定し、個々が当事者意識をもち、主体的に試行錯誤し、多様な他者とのコミュニケーションにより課題を解決する「学習者主体の学び」の創造を進めていきます。

(イ) 協調型問題解決能力(Collaborative problem solving)の育成 -Collaboration-

主体的・対話的で深い学びの視点からドラスティックな授業改善を図り、未来社会を見据えた「未来の学び」を創造していきます。このために学習の基盤となる資質・能力である「情報活用能力」「言語能力」「問題発見解決能力」の育成を図ります。この資質・能力の育成のために3つの視点から「未来の学び」の創造にアプローチします。学校図書館・ICTの活用(情報活用能力)、対話する学び(言語能力)そして、外部人材の活用(問題発見・解決能力)を展開します。

(ウ) 家庭・地域・社会との連携・協働 -Innovation-

“よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”という目標を学校と社会が共有し連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、家庭や地域への情報発信に努めるとともに、家庭・地域・社会の力を学校の教育活動と協調させ、学校がCatalyst(触媒:変化促進の場)となり、学びのオープンイノベーションを誘発します。

イ 安心・安全に挑戦できる教育環境についての方針

学校生活を充実させるために「信じ、待ち、許す」ことを基本方針として指導を広げていきます。生徒を100%「信じる」こと、丁寧に指導して成果をじっくり「待つ」こと、失敗を「許し」成長につなげることを徹底することで安心・安全に挑戦できる教育環境を構築していきます。

ウ 学校 DX への取組についての方針

授業・学校生活・校務等の学校に関わる全ての活動に躊躇せず先端技術を導入し活用することで学校DXの実現を目指します。生徒・教職員・保護者・地域等の協働により、すべての関係者のデジタルシチズンシップの醸成と今後の教育の方向性を考える契機として取組を広げていきます。

エ 地域リソース(教育資源)の活用に関する方針

地域のリソース(教育資源)を最大限に引き出し、教育活動を展開していくことで「地域とともに成長する学校」への転換を図ります。この実現に向けコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の活性化(熟議)により、学校と地域社会が目標やビジョンを共有し、地域と一体となって生徒・保護者・地域住民を育む体制を構築していきます。

オ 特色ある教育活動についての方針

「グローバル人材育成推進校」として、単に語学(英語)教育を充実させるだけでなく、多様な他者の価値観や特性の差異、世界的な環境の変化等と協調して、これまで経験したことのない様々な課題を主体的に解決していく人材育成を新しい学びを実現することにより進めていきます。

2 指導の重点

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」に重点を置きます。

生徒同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」に重点を置きます。

習得・活用・探究という学びのプロセスの中で、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」に重点を置きます。

(1) 各教科等

ア 各教科

(ア) 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

未来社会をたくましく生き抜くスキル(資質・能力)を育成するため、各教科の授業デザインの転換を図ります。その手段として「知識構成型ジグソー法」をベースとして、学びの変革を目指します。これまでの一斉指導によるバブル型知識(覚えるだけの知識)の習得から可搬型(持ち運びができる)、活用可能型(課題解決に活用できる)、発展持続型(自発的に学びを広げる)の知識へと転換することにより確かな学力を育成していきます。

(イ) 「個別最適な学び」の構築

指導方法や指導体制の工夫改善により「個に応じた指導」の充実を図ります。「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業を展開する中で、個々の学習に関する悩みの理解や興味・関心・意欲等を把握し「指導の個別化」と「学習の個性化」を意識したセルフラーニングの導入により「個別最適な学び」の構築を目指します。また、ICTの活用により学習履歴(スタディ・ログ)や生徒指導上の情報等(シブヤ教育ダッシュボード)を利活用して、個々の家庭の経済事情等に左右されることなく、学びに向かう力を育成していきます。

(ウ) 学びと先端技術(テクノロジー)の融合

タブレット端末をはじめとする先端技術(テクノロジー)と学びの融合を目指します。実社会で活用の広がる先端技術(テクノロジー)を学びとつなぐことで、先端技術(テクノロジー)を課題解決のツールとして使いこなすスキルを育成するとともに、デジタルシチズンシップの育成に取り組めます。

学習者の課題解決のツールとして、これまでにない先端技術(テクノロジー)の導入にも挑戦していきます。

(エ) 学習指導と評価の一体化(LMS 学習マネジメントシステムの構築)

各種の学習状況調査や定期考査等により評価活動を充実させるとともに、評価と学びをつなぐ仕組みを構築していきます。学習者に向け「個別最適な学び」につながる評価を目指すことや指導者には授業デザインの変革の指標として、学習指導と評価の一体化により「学び」を充実させていきます。また、「学習シラバス」を地域、家庭、生徒に公開することで学習指導と評価の一体化を推進するとともに「学びの道標」として、地域や家庭を巻き込んだ「学び」を展開します。

イ 特別の教科 道徳

(ア) 教育活動全体の道徳教育の要としての道徳の授業の充実を図り「自立した一人の人間として、人生を他者ととともにより良く生きる人格を形成すること」(道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度等の育成)を目指します。具体的には、学年担当教員がチームを組み、チームとしての教材研究にあたりるとともに道徳教育推進教師を中心に評価についても学校全体で充実させていきます。

(イ) 家庭や地域との連携を深めるために「道徳授業地区公開講座」を実施します。地域や家庭で大人も真剣に考え、議論する内容を設定し、意見交換会を実施するとともに、校外に向けても学びを広げていきます。

(ウ) タブレット端末や先端技術(テクノロジー)と道徳科を融合させることで、これからの時代に必要な情報活用能力(情報モラルを含む)やデジタルシチズンシップの育成にあたります。

ウ 総合的な学習の時間(シブヤ未来科)

- (ア) 探究的な学習を一層重視することで、各教科等で育成をしている資質・能力を相互に関連付けて学びを深め、教科横断的(合科的)に学んだことが実社会・実生活において活用できるものであると実感させていきます。さらに、学習の基盤となる言語能力・情報活用能力(情報モラルを含む)・問題発見解決能力の育成にあたります。
- (イ) PBL(Project Based Learning:課題解決学習)の導入により、多様な他者と課題をブラッシュアップし、その課題を解決するまでの過程で様々な知識(可搬型知識、活用可能型知識、発展持続型知識)を得ていく学びを展開します。
- (ウ) 地域のリソース(教育資源)を最大限引き出し、地域との協働によるPBL(課題解決学習)を構築していきます。これにより、授業で「学んでいること」がどのように「社会」とつながっているのかという本物を体感する「オーセンティック・ラーニング Authentic Learning(本物の、信ずべき、確実な、真正の)」を目指していきます。
- (エ) タブレット端末や先端技術(テクノロジー)と総合的な学習の時間を融合させることで、これからの時代に必要な情報活用能力(情報モラルを含む)やデジタルシチズンシップの育成にあたります。

エ 特別活動

- (ア) 「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つを視点から学級活動、生徒会活動、学校行事等の様々な集団活動を意図的に展開していきます。
- (イ) 「人間関係形成」に必要な資質・能力を育成するために、集団活動での個人と個人あるいは個人と集団という関係性の中で、年齢や性別・考え方や関心・意見の違い等を理解した上で認め合い、互いのよさを生かすような関係をつくることのできるよう活動を展開します。
- (ウ) 「社会参画」に必要な資質・能力を育成するために、自発的・自治的な活動の充実を図ります。個人が集団へ関与する中で、地域や社会に対する参画、持続可能な社会の担い手となっていくことができるよう活動を展開します。
- (エ) 「自己実現」に必要な資質・能力を育成するために、自己の理解を深め、自己のよさや可能性を生かす力、自己の在り方や生き方を考え設計する力など、集団の中において「現在の自分」や「将来の自分」に関わる課題を考察することができるよう活動を展開します。

(2) 特別支援教育

学びや生活、人間関係等に不安のある生徒への支援を充実させていきます。特別支援教育校内推進委員会を設置、特別支援教育コーディネーターを中心とした組織での対応にあたります。個々の状況の把握を組織的・重層的に行い、支援の必要な生徒には、保護者との連携により「個別指導計画」や「学校生活支援シート」を作成、適切な支援にあたります。

支援を要する生徒のニーズに応じて、特別支援教室や学習支援員等による個別指導等を行います。校内での生徒の状況把握や、どのような支援を必要としているのか、保護者・地域と密に連携を取り、生徒の状況に応じて適切な関係諸機関との連携と多様な学びの機会を生徒に提供していきます。

インクルーシブ教育システムの構築を図るため、全教員の特別支援教育に関する基礎的な知識・技能の向上を図るとともに、学校の運営上変更が必要な事案に対しては、スピード感をもって対応します。また、必要に応じて、外部の人的資源の活用により、専門性を高めていきます。

特別支援学校等の副籍生徒のニーズに応じて、直接または間接的な交流活動等を積極的に行っていきます。

(3) 創意ある教育活動

ア グローバル人材育成推進校

単に語学(英語)教育を充実させるだけではなく、多様な他者の価値観や特性の差異、世界的な環境の変化等と協調して、これまで経験したことのない様々な課題を主体的に解決していく人材育成を進めていきます。すべての学びを通して「グローバル人材育成」を意図的に進めるとともに、TGG(Tokyo Global Gateway)での活動を1年次および2年次において実施します。

イ 主体的に「学ぶ」ための環境構築

主体的に「学ぶ」ことのできる校内の環境構築を進めていきます。学習室やストリートピアノ、頭の体操コーナー、校内美術館、朝のスポーツ活動等により、主体的に学習習慣や運動習慣が構築できる環境づくりをしていきます。

ウ 小中連携教育

近隣の4小学校(千駄谷・神宮前・鳩森・代々木山谷)との「学び」の連携を進めていきます。あらゆる教育活動を「連携の視点」から再構築し、連携できるものについてはすべて連携した取組を実践していきます。

(4) 生活指導

人権尊重の精神を基盤に生活面に関する指導の充実を図ります。生徒の主体性を最大限引き出すとともに、他者との対話によって、様々な課題を試行錯誤しながら解決していく指導を展開します。さらに、誰一人取り残されることなく「充実した中学校生活」となるように、以下について指導の充実を目指します。

- いじめ防止基本方針による指導の徹底
- タブレット端末やスマートフォンの活用の実践指導
情報活用能力(情報モラルを含む)、デジタルシチズンシップ
- 安全教育(生活安全・交通安全・災害安全)の実践指導
- アレルギーや健康面等に不安のある生徒への教職員の支援

(5) 進路指導

すべての教育活動において「キャリア教育」の視点から活動内容を見直し、指導を展開します。第1学年での職場体験学習を起点に、未来社会につなぐ「学び」の創造を目指していきます。

進学指導については、生徒自身が進路決定に関する情報を収集・分析し、主体的に進路決定をすることができるように指導するとともに、保護者との連携を図り、自己実現に向けた、より良い進路選択ができるよう指導を展開していきます。

3 学年別授業日数及び授業時数の配当

(1) 年間授業日数配当表

月 学年	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
1	16	21	21	15	1	20	22	21	18	18	19	16	208
2	17	21	21	15	1	20	22	21	18	18	19	16	209
3	17	21	21	15	1	20	22	21	18	18	19	13	206
備考	第1学年は、4月 9日が入学式のため、授業日数は1日減となる。 第3学年は、3月19日が卒業式のため、授業日数は3日減となる。 4月、6月、7月、9月、11月、12月、1月、2月は、振替なしの土曜授業日を実施のため、それぞれ1日増となる。												

(2) 各教科等の年間授業時数配当表

教科等	学年	1	2	3
各 教 科	国 語	126	126	95
	社 会	95	95	126
	数 学	126	95	126
	理 科	95	126	126
	音 楽	41	35	35
	美 術	41	35	35
	保 健 体 育	95	95	95
	技 術 ・ 家 庭	70	70	35
	外 国 語 (英 語)	126	126	126
	小 計	815	803	799
特別の教科 道 徳		35	35	35
総合的な学習の時間		130	142	146
特別活動(学級活動)		35	35	35
総 計		1015	1015	1015

備 考

ア 1単位時間

1 単位時間は50分として実施します。

イ 総合的な学習の時間(シブヤ未来科:Challenge Time)

(ア) 協働探究(50時間)

	第1学年	第2学年	第3学年
探究課題	街を知る	安心・安全な街づくり	未来の街づくり
題材名	原宿外苑ガイドブック(45)	災害安全(45)	未来の街のデザイン(45)
1次	「原宿」と「外苑」(15)	過去の災害から学ぶ(15)	30年後の未来(15)
2次	街の魅力(15)	防災計画(15)	街づくりを学ぶ(15)
3次	街をPR(15)	実践型防災訓練(15)	未来の街のデザイン(15)
その他	生き方探究(5)		

(イ) Project Based Learning(50~70時間)

地域団体・企業等と協調した探究

- 原宿表参道スーパーよさこい2024演舞プロジェクト
- 「南極観測船しらせ」応援プロジェクト 能登ものづくり応援プロジェクト
- 伝統文化「きもの」プロジェクト 伝統文化「越前和紙」プロジェクト
- 「土」づくりプロジェクト 原宿外苑大根栽培プロジェクト
- マメ(味噌づくり)プロジェクト 原宿外苑ワンダフル給食プロジェクト
- きれいな渋谷プロジェクト 原外カフェ運営プロジェクト
- パリパラリンピック・東京デフリンピック応援プロジェクト
- 原宿外苑千芋プロジェクト Drone Impact Challenge Eduプロジェクト
- 明治神宮協創プロジェクト 原カド協創プロジェクト
- FP(ファイナンシャル・プランニング)プロジェクト

(ウ) 個人探究(30時間)

個人探究発表会 原宿外苑プレゼンテーション・コンクール

ウ 特別活動

学級活動に年間35時間、生徒会活動に年間50時間、学校行事に年間80時間を
配当します。

エ その他

- (ア) 年間時数が35週で配当できない教科への対応として、A時間割18週・B時間割17週
を実施して対応します。
- (イ) 火曜日を7時間授業とします。
- (ウ) 月に1回、月曜日を4時間授業として教員研修 Teacher's Learning Day を実施しま
す。
- (エ) 月曜日と水曜日の5時間授業後については、年間70時間を生徒会活動20時間、学校
行事50時間に充てます。

第4表中

学校名 原宿外苑中学校

4 学校行事

月 曜日 行事日	4		5		6		7		8		9	
	曜	行 事	曜	行 事	曜	行 事	曜	行 事	曜	行 事	曜	行 事
1	月		水	洪中研 TLD	土		月		木		日	
2	火		木	開校記念日	日		火		金		月	TLD
3	水		金	憲法記念日	月	前期中間	水		土		火	前期期末(始)
4	木		土	みどりの日	火	中間前期	木		日		水	
5	金	春季休業日終 職員会議	日	こどもの日	水		金		月		木	前期期末(終)
6	土		月	振替休日	木		土		火		金	教育実習(始)
7	日		火		金		日		水		土	土曜授業 学校説明会
8	月	始業式	水	体育祭 全体練習(全)	土	土曜授業	月	TLD	木		日	
9	火	入学式	木		日		火	薬物乱用防止 教室(1)	金		月	
10	水	対面式 部活動説明会	金		月		水		土		火	がん教育(2)
11	木	安全指導	土		火	体力テスト	木	TGG校外学習(1) 安全指導	日		水	職員会議・研修会
12	金	学年時間割(終) 定期健康診断(始)	日		水	職員会議・研修会	金		月	山の日	木	
13	土	土曜授業 保護者会	月	体育祭 全体練習(全)	木		土	土曜授業 CS 道徳授業地区公開講座	火	閉庁日	金	
14	日		火		金		日		水	閉庁日	土	
15	月	避難訓練 引渡訓練	水	体育祭予行 職員会議	土		月	海の日	木	閉庁日	日	
16	火		木	安全指導	日		火	避難訓練	金		月	敬老の日
17	水		金		月	指導課訪問 水泳指導(始)	水		土		火	避難訓練 認知症(1)
18	木	全国学力学習 状況調査(3)	土	体育祭	火		木		日		水	水泳指導(終)
19	金		日		水		金	全校集会 職員会議・研修会	月		木	安全指導
20	土		月	振替休業日	木	安全指導	土		火		金	生徒役員選挙
21	日		火	避難訓練	金		日		水		土	
22	月	職員会議・研修会 TLD	水		土		月	三者面談(始)	木		日	
23	火		木	都学力調査(全)	日		火		金		月	秋分の日
24	水		金		月	TLD	水		土	スーパー よさこい	火	避難訓練
25	木	修学旅行始(3)	土		火	避難訓練	木		日	スーパー よさこい	水	区陸上競技会
26	金		日		水	定期健康診断(終)	金	三者面談(終)	月	夏季水泳教室(始)	木	
27	土	修学旅行終(3)	月	TLD	木		土		火		金	
28	日		火	生徒総会	金		日		水	夏季水泳教室(終)	土	
29	月	昭和の日	水		土		月		木	職員会議	日	
30	火	振替休業日(3)	木		日		火		金	全校集会	月	教育実習(終)
31			金				水		土			

第4表の2 中

学校名 原宿外苑中学校

月 曜日 行事日	10		11		12		1		2		3	
	曜	行 事	曜	行 事	曜	行 事	曜	行 事	曜	行 事	曜	行 事
1	火	郡民の日	金	洪中研 TLD	日		水	元日	土		土	
2	水	洪中研 TLD	土		月	三者面談(始)	木		日		日	
3	木		日	文化の日	火		金		月	スキー移動 教室(2)(始)	月	
4	金		月	振替休日	水		土		火		火	救急救命講習(1)
5	土		火	後期中間	木		日		水	スキー移動 教室(2)(終)	水	
6	日		水	後期中間	金	三者面談(終)	月	一覧表審査	木		木	安全指導
7	月		木		土		火	冬季休業日終	金		金	
8	火		金		日		水	職員会議・研修会	土	土曜授業 CS 新入生保護者説明会	土	土曜授業 学習発表
9	水	前期終業式 職員会議・研修会	土	土曜授業 CS 防災キャラバン	月	TLD	木		日		日	
10	木	連合音楽会	日		火		金		月	校外学習(1)	月	TLD
11	金		月	TGG校外学習(2)	水		土		火	建国記念の日	火	避難訓練
12	土		火	職場体験(1)(始)	木	安全指導	日		水	洪中研 TLD	水	職員会議・研修会
13	日		水		金		月	成人の日	木	学校保健委員会 安全指導	木	
14	月	スポーツの日	木	職場体験(1)(終)	土		火		金		金	卒業式予行
15	火	後期始業式	金		日		水		土		土	
16	水		土		月		木	安全指導	日		日	
17	木		日		火	避難訓練	金		月	TLD	月	
18	金		月		水		土	なみき祭展示	火	避難訓練	火	
19	土	なみき祭	火		木		日		水	職員会議・研修会	水	卒業式
20	日		水	職員会議・研修会	金		月	TLD	木		木	春分の日
21	月	振替休業日	木	安全指導	土		火	避難訓練	金		金	
22	火		金		日		水		土		土	
23	水		土	勤労感謝の日	月		木		日	天皇誕生日	日	
24	木	進路相談 (3)(始) 安全指導	日		火		金		月	振替休日	月	
25	金		月	TLD	水	全校集会 職員会議・研修会	土		火	後期期末(始)	火	修了式 職員会
26	土		火	避難訓練	木	冬季休業日始	日		水		水	春季休業日始
27	日		水		金		月		木	後期期末(終)	木	
28	月	TLD	木		土		火		金		金	
29	火	避難訓練	金		日		水	職員会議・研修会			土	
30	水	進路相談(3)(終)	土		月		木				日	
31	木				火		金				月	